



証券コード：4653

**Daiohs**<sup>®</sup>  
株式会社 **ダイオース**

# 第50期 報告書

2017年4月1日 ~ 2018年3月31日



## Top Message

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第50期は連結売上が前期比114.6%の298億円を達成し、過去最高の売上高を更新することができました。これもひとえに弊社を応援していただいている皆様のお力添えの賜物と厚く御礼申し上げます。

国内部門では顧客満足度向上に向け様々な施策を進めた結果、取扱商品全般において期末時点のお客様の件数が過去最高を更新することができました。

米国部門ではBlue Tiger社の買収により「高付加価値型オフィスコーヒーサービス」の展開を開始しました。今後従来型サービスとともに、育ててまいりたいと思えます。

引き続き皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **大久保真一**



### CSR活動

2015年に設立されたダイオーズ記念財団は、全ての人が安全に活き活きと働くことのできる社会環境作りに貢献することを目的として活動してまいりましたが、2018年3月をもって公益認定を受け、「公益財団法人ダイオーズ記念財団」となりました。

今まで社会に育てていただいたダイオーズが少しでも国内外の社会環境づくりに役立てるよう、これからもダイオーズ記念財団とともに貢献してまいります。

なお、財団では主に「奨学金事業」と「助成事業」を行っています。

財団の活動はホームページで詳しくご紹介していますので、ぜひご覧ください。

<http://www.daiohs-zaidan.or.jp/>



# 事業の内容



## 国内部門

### TOPICS 1

#### 顧客満足度向上のための施策を実施

前期は環境サービスの提供網拡大や利便性の高い大型コーヒーマシン導入を通して顧客満足度の向上に注力しました。この結果、売上高は5期連続、営業利益は3期連続で過去最高を更新しました。

### TOPICS 2

#### 業績拡大に向けて

当社のストロングポイントである魅力あるルートサービスの質をさらに向上させるべく、「成功事例」の共有やマニュアルの進化・成長を進めてまいります。また、開発部門の拡充により魅力ある新商品や新サービスを継続して提供するとともに、M&A にも積極的に取り組み、業績拡大を目指してまいります。

#### 飲料サービス

- ・ オフィスコーヒーサービス
- ・ オフィスティーマーサービス
- ・ ウォーターサービス



#### 環境サービス

- ・ クリーンケアサービス
- ・ オフィス清掃サービス
- ・ ECOトナーカートリッジサービス



## 事業の内容



### 米国部門

オフィスコーヒーサービス事業を中核とし、ウォーターサービス事業などオフィスの「従業員休憩室」関連の各種サービスを展開しております。

今後も全米展開を目指して、リージョナル営業ネットワークの形成を推進します。



### TOPICS 1

#### 高付加価値型 OCS 事業を展開

従来型のオフィスコーヒーサービス（OCS）にプレミアム感を充実させた新事業を開始しました。従来型とは異なる層のニーズに応える事業として、今後運営手法の整備と拡大を進めてまいります。

### TOPICS 2

#### バランスのとれた成長と利益を目指して

2014年3月期までに年商2億5000万ドル到達と全米展開の概ね完成を目指す10か年契約は想定を上回るペースで推移しております。今後も成長に向けた積極投資を進めるとともに、長期的利益をだせるよう中長期的経営を目指してまいります。



## アナリスト向け IR ミーティング要旨

企業 4653

**ダイオーズ** <https://www.daiohs.com/>

**大久保 真一** (オオクボ シンイチ)  
株式会社ダイオーズ社長

**国内は過去最高を更新!**  
**米国は高付加価値型OCSへ進出**



### ◆Blue Tiger Coffee 社を買収

2018年3月期の売上高はダイオーズジャパンが121億円(前期比109.6%)となり、過去最高を更新した。ダイオーズUSAは160百万ドル(同116.3%)となっており、前期比109%の予想を大きく上回って過去最高を更新した。以上の結果、連結売上高は298億円(同114.6%)となった。営業利益はダイオーズジャパンが10億15百万円(同105.3%)となり、過去最高を更新した。ダイオーズUSAは6.32百万ドル(同90.1%)となっており、先行投資が利益を圧迫した。以上の結果、連結営業利益は16億9百万円(同100.1%)となった。

当期のトピックスとして、国内部門では、期末の契約既存顧客数が過去最高となり、5期連続で過去最高売上高、3期連続で過去最高利益を更新した。積極拡販の継続と顧客ニーズへの迅速対応に取り組んでおり、大口ユーザー用コーヒーマシンを導入したほか、環境商材のサービス提供網を拡大している。環境商材はこれまで首都圏で展開してきたが、当期から全国展開の布石を打ちはじめ、大阪、福岡に出店している。

米国部門では、6月にワシントン州シアトル市を本社とするBlue Tiger Coffee社を買収した。同社はまだ歴史が浅いが、西海岸を中心に、サンフランシスコ、ロサンゼルス、オースティンなど6拠点で事業を展開しており、当社の飛躍の原動力になると判断した。従来OCS事業とは異なる高付加価値型のビジネスモデルとなっており、コーヒーだけでなく、サラダ、フルーツ、スナックなど、顧客のニーズに合った様々な商品を提供している。

従来型OCS事業については、米国進出から30年が経過したが、当期は分店で2拠点、M&Aによる新規市場進出で2拠点を outlet した。これにより、現在の拠点数は全米50州中23州・66拠点

(Blue Tiger Coffee社を含む)となっている。

### ◆国内開発部門の組織を拡充

2019年3月期の売上高は、ダイオーズジャパンで130億円(前期比107.4%)、ダイオーズUSAで175百万ドル(同109.1%)を予想している。国内・米国ともに、引き続き積極的にM&Aを行っていくが、この影響は業績予想に織り込んでいない。この結果、連結売上高は313億円(同105.0%)となる見込みである。前期の為替レートが110.81円であったのに対し、今期は105円を想定しており、米国部門の数値に影響が出る。営業利益はダイオーズジャパンで10億98百万円(同108.1%)、ダイオーズUSAで6.42百万ドル(同101.5%)を予想しており、連結営業利益は16億43百万円(同102.1%)となる見込みである。連結当期純利益は10億91百万円(同97.0%)を予想している。

国内部門の重点政策としては、顧客満足度の向上を目指し、成功事例をオペレーションマニュアルに適宜追加していくとともに、環境商品のサービス提供可能エリアの拡大を図る。2つめの重点施策は、業績拡大に向けた積極投資である。既に全国ネットワークが構築されており、今後の成長には開発部門の拡大が必要となるため、組織を拡充し、新商品・新サービスの開発に力を入れる。また、シナジーが期待できるM&A案件への投資を実施するとともに、新規拡販部門の更なる拡大を図る。

米国部門では、2024年3月期の年商250百万ドルを目指している。今期の重点施策としては、モデル売上未到達拠点および高付加価値型OCS事業での営業拡大を図るとともに、新規地域への進出に向けてM&A戦略を展開していく。中長期的な経営戦略として、従来型OCS事業については成長路線の体制強化を図る。高付加価値型OCS事業については拠点ごとの運営方法を統一し、効率化を通じて経営方法を確立していく。

### ◆全米展開を目指す

国内部門の対処すべき課題は人手不足の解消である。第2新卒や第3新卒の採用を進めるとともに、主婦や元氣なシニアも積極的に採用していきたい。また、アジア圏との取引拡大に対応するため、営業力に加えて語学力も備えた外国籍の社員も採用していく。米国部門の対処すべき課題は成長と利益のバランス管理である。高付加価値型OCS事業への先行投資や進出地域の拡大に備え、既存拠点

で確実に利益を確保すべく、最適な営業人員数の配置管理を徹底していく。

米国部門の拠点は2016年3月期の時点で48拠点となっていたが、2017年3月期に8拠点、前期にBlue Tiger Coffee 6拠点を含む10拠点の増加となった。ニューヨークをはじめ未進出地域があるため、足元を固めながら2024年までに全米展開を果たしたいと考えている。国内部門については、早い段階で全国展開を実現した。現在、直営は70拠点となっており、FC特約店拠点は194拠点となっている。

### ◆ニーズを先取りし、マーケットを創造

当社のビジネスモデルの強みとしては、売切りのワンウェイではなく、継続反復販売する必然性のあるビジネスだけを積み上げている。一例として、水についてはペットボトルを販売するのではなく、業務用のサーバを貸与し、定期的にメンテナンスを行いながら、回収したボトルをリサイクル、リユースしている。

また、オフィス内の必需品を取り扱うため、景気やブームによる大きな影響を受けにくく、創業来、黒字を継続している。米国においても、リーマンショック時に多くの企業が赤字に陥る中、当社は利益を確保し続けた。

3つめの強みは、B to Bに特化することにより、複数の商品、事業、サービスを届けられることである。顧客とは1～5年の年間契約を行っており、B to Bの継続サービスに特化している上場企業は当社のみである。

4つめの強みは、20万軒を超える顧客との継続契約に根差した販売チャネルに商品・サービスをアドオンできることであり、コーヒーで契約した顧客に対して、水やお茶、グリーンケアのマットやモップ、空気清浄器、掃除など、複数の商品を提案している。

5つめの強みは、米国市場で成功が実証されたビジネスを日本で展開するため、ビジネス展開上のリスクが少ないことである。現在、高付加価値型OCS事業の日本での展開を検討中である。今後も時代の新しいニーズを先取りし、新しいマーケットを創造していきたい。

株主還元については、配当性向30%を前提とした実績連動型の方式を取っている。2018年3月期の年間配当は、普通配当15円、特別配当5円とした。2019年3月期は、為替の影響を考慮し、普通配当15円、特別配当4円を予想している。株主優待制度については、毎年9月30日現在の株主に対してコーヒーを贈呈している。

## 質疑応答

### Blue Tiger Coffee 社が営業マンなしでも売上を拡大してきた背景には、シアトルという地域特性もあるのか。

シアトルを含め6拠点を展開しているため、シアトルのみの特性ではない。シアトルやシリコンバレーではIT企業が顧客の中心となるが、ロサンゼルスはエンターテインメント、シカゴはコンサルティング会社や会計事務所が大きなマーケットとなっている。米国では人手不足が深刻化しており、各企業が人材獲得に力を入れている。従業員向けの福利厚生として人気の高い高付加価値型OCSのコストは人件費と比較すればごくわずかな金額であり、今後導入する企業は増加すると見ている。

### 利益率についての考え方を伺いたい。

創業来、10%の売上成長と10%の利益確保を目標に掲げており、国内部門は目標に近い数字になっている。また米国部門についても、Blue Tiger Coffee および東海岸の先行投資を除くと、目標を上回っている。

### 米国において、買収金額の高騰は続いているか。

全米1位と2位の企業にはファンドが入り、買収金額は高騰している。実際、当社にも時価総額をはるかに超える金額のオファーが来ている。当社としては、あえて高い金額で規模の大きい企業を買収するのではなく、自力での進出もしくはリーズナブルな中小企業を買収する方針を取っている。また、1位と2位の企業は営業力が弱いため、営業組織を拡大し、顧客を獲得している。

(2018年5月22日・東京)

\*当日の説明会資料は以下のHPアドレスから見る事ができます。  
<https://www.daiohs.com>

\*本著作物の著作権は、公益社団法人日本証券アナリスト協会に属します。  
本稿は公益社団法人日本証券アナリスト協会のホームページに掲載されたIRミーティング要旨を同協会の許可を得て転載するものです。

## 決算概要 (連結)



## 連結貸借対照表(要旨)

(2018年3月31日現在)

(単位:百万円)

	第50期	第49期	増減
<b>資産の部</b>			
<b>流動資産</b>	<b>8,815</b>	<b>7,742</b>	<b>1,073</b>
現金及び預金	3,393	3,031	362
売掛金	2,970	2,780	189
リース投資資産	318	325	△6
商品及び製品	1,251	1,062	189
仕掛品	5	4	0
原材料及び貯蔵品	109	121	△11
繰延税金資産	203	122	80
その他	588	314	273
貸倒引当金	△24	△21	△3
<b>固定資産</b>	<b>9,831</b>	<b>8,488</b>	<b>1,343</b>
有形固定資産	5,744	5,173	570
無形固定資産	3,526	2,616	910
投資その他の資産	561	698	△137
<b>資産合計</b>	<b>18,647</b>	<b>16,230</b>	<b>2,416</b>
<b>負債の部</b>			
<b>流動負債</b>	<b>3,954</b>	<b>3,420</b>	<b>534</b>
買掛金	692	554	138
短期借入金	887	1,035	△147
1年内返済予定の長期借入金	658	242	416
未払法人税等	173	142	30
未払費用	468	425	43
賞与引当金	251	207	44
その他	821	813	8
<b>固定負債</b>	<b>2,194</b>	<b>836</b>	<b>1,357</b>
<b>負債合計</b>	<b>6,149</b>	<b>4,257</b>	<b>1,891</b>
<b>純資産の部</b>			
<b>株主資本</b>	<b>12,492</b>	<b>11,635</b>	<b>857</b>
資本金	1,051	1,051	0
資本剰余金	1,129	1,129	0
利益剰余金	10,311	9,454	857
自己株式	△0	△0	0
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>6</b>	<b>338</b>	<b>△332</b>
<b>純資産合計</b>	<b>12,498</b>	<b>11,973</b>	<b>525</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>18,647</b>	<b>16,230</b>	<b>2,416</b>

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 連結損益計算書及び連結包括利益計算書(要旨)

(2017年4月1日から2018年3月31日まで)

(単位:百万円)

	第50期	第49期	増減
売上高	29,869	26,057	3,811
売上原価	12,833	11,203	1,629
売上総利益	17,036	14,854	2,181
販売費及び一般管理費	15,426	13,245	2,180
営業利益	1,609	1,608	1
営業外収益	83	68	15
営業外費用	105	56	49
経常利益	1,587	1,621	△33
特別利益	14	91	△77
特別損失	7	121	△113
税金等調整前当期純利益	1,594	1,590	3
法人税・住民税及び事業税	398	557	△159
法人税等調整額	69	△1	70
当期純利益	1,125	1,034	91
親会社株主に帰属する当期純利益	1,125	1,034	91
その他の包括利益	△332	△16	△315
包括利益	793	1,017	△223

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(2017年4月1日から2018年3月31日まで)

(単位:百万円)

	第50期	第49期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,300	2,926	373
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,864	△2,367	△1,497
財務活動によるキャッシュ・フロー	961	△681	1,642
現金及び現金同等物に係る換算差額	△34	△2	△32
現金及び現金同等物の増減額	362	△124	486
現金及び現金同等物の期首残高	3,031	3,156	△124
現金及び現金同等物の期末残高	3,393	3,031	362

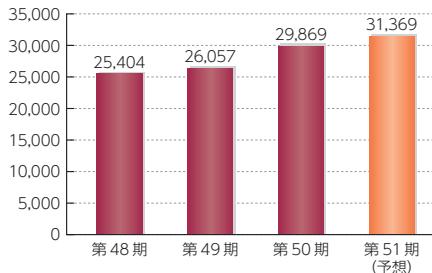
(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 連結業績の推移

### 売上高

(単位：百万円)

【為替レート】  
第50期 1ドル110.81円  
第51期 1ドル105円(予想)



### 営業利益

(単位：百万円)



### 経常利益

(単位：百万円)



### 親会社株式に所属する 当期純利益

(単位：百万円)



## 株主優待のご案内

**贈呈基準**：毎年9月30日現在の株主の皆様

**優待内容**：  
■ 300株以上 1,000株未満  
 100杯分のコーヒー  
■ 1,000株以上  
 200杯分のコーヒー

**発送時期**：12月上旬を予定しております。

## 株主メモ

**事業年度**：4月1日～翌年3月31日

**期末配当金受領**：3月31日

**株主確定日**

**中間配当金受領**：9月30日

**株主確定日**

**定時株主総会**：毎年6月

**株主名簿管理人**

**特別口座の口座**：三菱UFJ信託銀行株式会社

**管理機関**

**同連絡先(注)**：三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

東京都府中市日鋼町1-1

TEL 0120-232-711 (通話料無料)

郵送先

〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

**上場証券取引所**：東京証券取引所

**公告の方法**：電子公告により行います。

公告掲載URL <https://www.daiohs.com>

(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



**Daiohs®**



株式会社 **ダイオーズ**

本社 〒105-6123

東京都港区浜松町2-4-1

世界貿易センタービル23階

Tel.03-3438-5511(代表)

Fax.03-3438-1788

